

平成 31 年度（2019 年度）事業活動報告

平成 31 年度は「江別市民活動センター・あい」を拠点として、様々な市民活動団体の支援事業やまちづくり活動を行った。今年度は 12 月 22 日から市民交流施設「ぷらっと」への移転した事により、野幌駅南口すぐそばという立地を活かし、ぷらっと気軽に利用・相談できる場所として、これまでとは違う新たな江別市民へ認知され、オープン以来多くの方々が来館された。その結果、相談件数は 486 件と昨年度の相談件数から大幅増、来館者数は 25,636 人と過去最高の来館者数となった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、2 月後半からは会議室の利用停止や自主事業の休講を行った。

事業としては、自主事業である 10 年目の江別まち検定の実施を含め、今年度も 20 以上の事業を実施した。江別まち検定は、今年度も江陽中学校の総合学習での出前まち検定、江別市役所新人職員とインターンシップ生への研修を行った。センター自主講座においては、全体の受講者数が 310 名となり、昨年より 17 名増加した。新規講座は 1 つだけだが、それぞれの講座の生徒数を伸ばしている。

試行年度から 5 年度目となった「学生地域定着広域連携推進協議会」の事務局業務では、江別市を含む 8 市町村と 4 大学の学生との地域活動のマッチングを行い、86 プログラム、参加学生の延べ活動日数 726 日という多くの学生のマッチングを行った。登録学生も 621 名を数え、また、大学の窓口との連携がよりスムーズになった。

協働のまちづくりに関する事業としては、市民生活課との協働により、コラボニュースによる市民活動の情報発信や、WEB サイト、「コラボのたね」の団体登録の PR 事業、市民活動団体の活動活性化をテーマにセミナー・ワークショップ、市民活動団体出前講座の窓口業務等、小中学校への啓発事業、子ども協働ワークショップも継続して行った。

また、地域におけるまちづくり活動の支援として、商店街のコミュニティ活性化支援、出前環境学校が継続された。

新規の事業として、まちづくり市民アンケートの集計業務を行い、単発として、総合計画の意見交換会、婚活イベント事業を行った。移転からの新たな核となる事業として、観光案内業務、情報図書館業務の委託を受けることになった。観光案内業務や図書館業を行うことにより、今まで市民活動とは無縁であった市民の来館が予想され、市民活動やまちづくりの新たな発展が期待される。

市民活動団体のサポートの他、協働のまちづくりのための各種啓発事業や商店街、学生への地域活動のサポート等、地域に対して幅広く貢献する地盤が整いつつある。